

公園と共にできた水辺

トンボの湿地は、1978（昭和 53）年に、本公園の整備が始まったことで誕生しました。水辺環境を生み出すことで、園内の環境を豊かにし、さまざまなレクリエーションの場となること、武蔵野の自然を再生し保全することを目指しています。トンボの湿地は、訪れる人たちがトンボとふれあえるように設計されています。

面積約1000㎡の人工の池は、水生昆虫がすみやすい水深を維持した環境を造っています。ここでは、これまでに4科17種のトンボが確認されています。

水辺の生きもののつながり

水辺は、多くの生きものたちの水場になるだけでなく、水辺にくらす生きものにとっては大切なすみかです。ミツガシワや周囲の草木の花々は小さな昆虫に蜜や花粉を提供し、実を結んでもらいます。花に集まる小さな昆虫は、肉食昆虫であるイトトンボやトンボの仲間、カエルや野鳥たちには大事な食べ物です。カエルの幼生やトンボの幼虫（ヤゴ）は、水中の小さな生きものを食べ、他のカエルや魚や野鳥などに食べられます。その生きものたちも、カラスやタカの仲間やヘビなどに食べられます。

多くの生きものが、水辺という環境を通して、食べたり食べられたりする関係でつながっています。

トンボの湿地マップ



公園のきまり

- ・園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- ・立ち入ってもよい場所か確認して観察しましょう。
- ・スズメバチに出合ったら、立ち去るまでじっと待ちましょう。

トンボの湿地 お楽しみガイド

園内のトンボの湿地は、トンボやカエルなどを観察しやすいスポットです。

特に春から夏にかけては目の前で水辺の生きものたちが見られます。ちょっと歩いてみませんか？



トンボの湿地の生きものたち（春～夏）

オオシオカラトンボ トンボ科

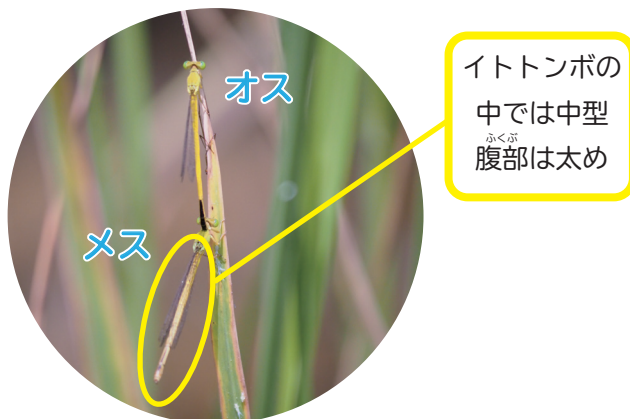
オスの体色は
濃い水色
目は黒い



メスは黄色

成虫は5～10月頃まで姿が見られます。周囲に樹木に覆われた少し暗い水たまりなどにすみまします。シオカラトンボに似ますが後翅のつけ根に黒斑があります。

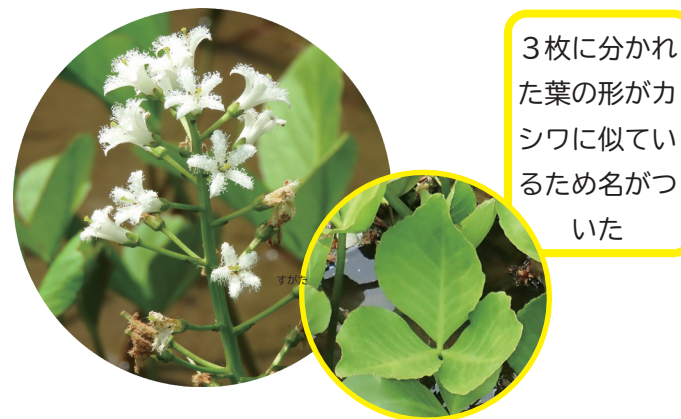
キイトンボ イトンボ科



イトトンボの
中では中型
ふくぶ
腹部は太め

成虫は5～10月頃まで姿が見られます。オスは全身が黄色く、メスは少し緑ががっています。成虫・幼虫とも肉食で、成虫は小さな昆虫を捕らえて食べます。

ミツガシワ ミツガシワ科

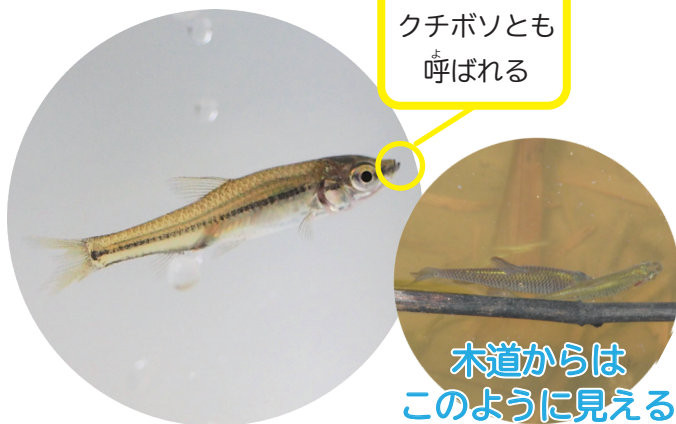


3枚に分かれた葉の形がカシワに似ているため名がついた

4～5月に、星形の白い花をいくつもつけます。花は下の方から順に咲き、蜜を求めて訪れるハナバチ類やハナアブ類が花粉を運ぶことで実を結びます。

モツゴ コイ科

関東地方では
クチボソとも
呼ばれる



メダカ類の倍くらいの大きさのスマートな淡水魚です。4～7月にヨシの茎や石の表面などに産卵します。オスはなわばりを形成して卵を守ります。

ニホンアカガエル アカガエル科 カワセミ カワセミ科



2～3月は水中の丸い卵塊がよく見られます。孵化した幼生（おたまじゃくし）は夏前にはカエル（成体）の姿になって上陸し、湿地の周囲の森でくらしまします。



メスの下くちばしの色は赤、オスは黒

メダカ類やモツゴ、カエルの幼生、アメリカザリガニなどを食べにやってきます。水辺に面した木の横枝にとまって獲物をねらう姿が一年を通して見られます。